

杉並区地域自立支援協議会 議事録

会議名称	21年度第3回杉並区地域自立支援協議会
日時	平成22年3月12日(金) 14:00～16:00
場所	区役所西棟6階第6会議室
<p><出席者> 高山由美子委員(会長)、佐藤弘美委員(副会長)、小野寺肇委員、佐野徹委員、柏木美子委員、鈴木美佳子委員、反町龍弘委員、菊地英治委員、加藤恵愛委員、田中直樹委員、笹谷亨子委員、木村菜穂子委員、前木秀規委員、島川稜子委員、春山陽子委員</p> <p><幹事> 保健福祉部障害者生活支援課長：末久秀子 保健福祉部障害者施策課長：大森房子</p> <p><事務局> 障害者生活支援課 諸沢洋子、鈴木久、望月俊彦、池田 恵子 障害者施策課 阿部茂年、本館睦美</p>	
<p>【次第】</p> <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議題 地域の課題について テーマ「障害者サービスと連携について」 (1) 地域移行促進部会…地域医療アンケートのまとめ(案)報告 (2) 相談支援部会報告…活動報告(発達障害について施設見学) (3) サービスのつながりや連携がうまくいっている地域事例から(精神障害者の地域支援、GHからアパートへの移行) (4) 討議 (5) 報告 ・来年度の障害者関連の予算について ・雇用支援ネットワーク全体から</p> <p>4 その他 次回 日程等</p> <p>5 閉会</p>	
<p>【配付資料】</p> <p>資料1 障害がある方の地域医療についてのアンケート報告(案)(委員のみ当日配付、公開なし)</p> <p>資料2 平成21年度 自立支援協議会 相談支援部会 後期活動報告</p> <p>資料3 発達障害者相談支援の現在の流れ(例)</p> <p>資料4 地域生活支援事業・福祉サービスの新体系(自立支援法パンフレット(抜粋))</p> <p>資料5 杉並区の障害者地域自立生活支援の推進</p>	

杉並区地域自立支援協議会 議事録

資料 6	平成 21 年度相談支援部会・地域移行促進部会合同部会の内容
資料 7	精神障害者支援の事例（委員のみ当日配付、公開なし）
資料 8 - 1	平成 22 年度障害者福祉関連施策予算について
資料 8 - 2	22 年度障害者福祉関連施策の新規および主な事業変更について
資料 8 - 3	22 年度障害者生活支援課に関する予算項目
資料 9	21 年度第 1 回障害者雇用支援ネットワーク会議(全大会、施設長会) 報告
参考 1	平成 21 年度事業所別相談件数（H21 年 4 月～2 月）（当日配布）

【内容】

1 開会あいさつ（障害者生活支援課長より）

省略

2 会長あいさつ（高山会長より）

省略

3 議題

(1) 地域移行促進部会報告（資料 1 参照）

資料説明（地域移行促進部会長より）

<意見交換>

- 集計の数字をみると、肢体不自由の数が極端に少ないはどうか。
- 今回のアンケートは、障害者が安心して医療機関にかかるための必要な情報や受診・服薬を継続するための支援についての実態把握をするため、知的・精神・重度身体を通所施設や入所施設、グループホーム、相談支援事業所に配布した。本部会は、知的障害者と精神障害者の地域移行を検討しているので、身体障害者への配布を重度の身体障害者にとどめた結果、件数が少なくなっている。
- 精神障害の数字を見ての印象は、本人は困っていないが、支援者は心配している。これを「当事者の認識不足」と見るか「支援者の過剰反応」と見るかで、分析の仕方が変わってくる。
- 今回のアンケートで把握できた当事者や支援者の意見が、今後の地域医療の取り組みの一つとしての医療関係者と話すときの素材になればと考える。集計では、「あり」と「なし」に分けているが、項目ごとに差が表れている。「なし」の記載は問題がないということではなく、思いつかなかったということであり、分析の時に注意しなければならない。
- アンケートの集計をもとに、「障害を持つ人の課題がこうだ」と言える根拠データとしては弱いですが、一定の方々の意見として困っているところがあれば、それをどう支援していくかを考えていくことになる。今回のアンケートのいい使い方ができればと思う。

(2) 相談支援部会報告・・・活動報告（発達障害について施設見学）（資料 2・資料 3 参照）

資料説明（相談支援部会長より）

<意見交換>

―見学会について―

- グループホームの情報交換会で相談支援部会グループホーム見学会の報告があり、利用

杉並区地域自立支援協議会 議事録

者・世話人ともに歓迎ムードだった。今年度限りのものではなく、今後も相談支援事業所とグループホームが連携していけるように、情報交換の場を設けていければと感じた。

—発達障害について—

- 特別支援学校では、校内委員会を開いて課題の対応をし、教育コーディネーターなどが中心に支援にあたっている。学校で対応できないところが地域の相談に入っていると思う。
- 現状の整理が必要と思う。保護者の福祉サービス利用は、活用の度合いに格差があるように感じる。

(3) サービスのつなぎや連携がうまくいっている地域事例から(精神障害者の地域支援、GHからアパートへの移行)

資料説明(加藤委員より)

(4) 討議

今回の討議では、上記の報告と事例のような現状について、委員の方のそれぞれのお立場で、学校・事業所・相談機関・地域でサービスをどのようにつないでいるか、つながっていないか、つなげられないのか、サービスをうまく利用できている実感や難しさなどの現状やご意見をいただければと思います。(会長より)

- 特別支援学校では、個別支援計画に沿って1年生～卒後の定着支援までを実施するようになったので、家族が本当に困らないと福祉サービスを求めないのが実態と思う。早くからの相談支援が必要と思う。
- 本人の生活は、母親がどう動けるかにかかっている。相談支援を利用できる母親とそうでない母親との格差ができると感じる。学校が果たす役割が昔と変わってきている。例えば、昔は学校が車椅子や補装具の相談もやってきたが、今、教育では福祉サービスに関してはやらなくなっている。
- ケア24との交流は有意義だった。顔が見える関係になることが第一歩と感じた。グループホームや施設との関係づくりは、実際に行ってみることだと感じている。制度の理解の違いもあるが、顔が見える関係ができないと連携の役割分担もできないと思う。今後、役割分担を明確にしながら連携していく必要がある。マイルドハートなど地域の社会資源の連携は今後みんなの課題となるであろう。
- ホームヘルプ事業所に学校から直接連絡がぼつぼつ入るようになった。学校と情報交換ができるのも大切である。杉並区では学齢期のサービスがないので検討課題だと思う。自費でのサービスしかない。共に生きる社会への模索ができる環境になっていないと思うので、区で、このような現状と課題の解決を期待したい。
- 就労を継続していくためには連携が不可欠と考える。やなぎくぼなどが実施しているフリースペースの活用は有効な支援の一つと思う。相談に対して早期に連携し、連携機関の支援者が知恵を出し合い、方向性を出し合う。色々な機関との関わり合いの中で対応(支援)も良くしていけると思う。顔が見えることでつながりやすくなる。問題が起きてからではなく、早め早めに支援していくことが大切と考える。

杉並区地域自立支援協議会 議事録

- 親が支援機関をどう使っていけるかがわかる支援も含め、就労前から支援機関とのつながりは大切である。企業の人事担当者の話を親御さんに聞いてもらい、働くために必要な物・事、何がサービスとしてあるのかを知ってもらうことも進めていきたい。
- 成年後見人や認知症などのケースで、つなぐことや連携がうまくいったときは、情報の共有ができていると思う。相談ケースが増えている。うまくいかないのは、丸投げしているケースで、基本情報を伝えていないので支援の役割分担ができず進まない。進めていくためには、早い段階から支援にかかわり、互いの支援を活かせるように互いの専門性を理解し、役割分担できるとよい。
- 土日をダンボールハウスで過ごしていた利用者支援で、作業所・相談支援事業所・グループホームが連携し、ショートステイにつながったケース。親戚に支えられての生活となり、福祉事務所・作業所・ヘルパー事業所と連携しているケース。高齢の障害に福祉事務所・作業所・ヘルパー事業所が連携し、入浴サービスや健康管理につながったケース。相談支援事業所・作業所・福祉事務所が連携し、アパート生活支援からケアホームに入居したケースなど。ケースの中からわかってくることは、まず情報の共有・必要な所に支援が入ったら定期的に点検し合う・連絡を取り合うことで情報を伝え合う、このようなつながりの中で相談機関が次の支援につなげていければと思う。
- 支援センターで中途視覚障害者の情報交換会をしたが、サービスはあるがそこにたどり着くまでが大変であったとの話が出た。介護保険がらみのケースは、ケア 24・福祉事務所・通所施設などと相談できる関係作りをしている。学校からは「地域の相談支援事業所を知って欲しい」という目的で生徒の訪問がある。支援センターとしては、障害者理解の取り組みを実施している。
- 武蔵村山では 7 万人に対し相談支援事業所を 1 箇所整備しているので、杉並区に置き換えると 7 箇所となる。区内を 7 つのユニットに区切るのも良い方法と感じた。3 障害の対応で違いがあるが、誰がどこで相談したらよいか、緩やかな地域性があってもよいかと思う。
- ピア相談では、当事者が集まる場のフォロー役や新しい情報提供などを行っている。つなぐということについて、例えば、図書館実習をするときも支援をして欲しいと思う。
- システムが優先されると、本人の声が通らない面が出てくる。また、支援者や事業所にはばらつきがある。支援を受けていると本人たちが引くしかない場面が多く、不安を覚えてしまうのは残念だ。当事者が連携するということの必要も感じた。
- 相談支援事業では、機能・役割・範囲をしっかり決めることが重要と考える。区では資源は多いが、サービスとサービスの隙間を埋めるときの幅や広がりを感じる。埋めるためには、継続した取り組みが必要で複数の相談専門員の配置が鍵である。まずは、それぞれの特徴を活かして皆でワンストップの取り組みを実施が重要と思う。連携はお互いの合意がないとうまくいかない。
- 本人から見た隙間にスポットを当てると、サービスにつながっていないことが見えてくる。サービスが埋まらないときには苦勞する。区が見えている課題への対応は取り組んでもらいたい。学校の送迎や施設への送迎、移動支援の課題などである。

杉並区地域自立支援協議会 議事録

- 重度肢体不自由の学校では、家族を守らないと本人も守れないという事例が起こっている。ショートステイのあり方などは課題だ。学校の中では、看護師・介護士・OT・PTなど専門職が多く、スタッフの連携が大変になっている。学齢期は最後に生活の部分で連絡を取るなどという流れである。サービスを入れることによりどういう役割を果たすか、相談支援事業所と考えていきたい。

※ 今回の発言をもとに、事務局でテーマに対する課題整理をし、一表にしたものを各委員の方に送ります。一表には課題解決の欄を設けますので、解決へのアイデアを記入し、返信してください。次回の討議材料とします。

(5) 報告

- ・ 来年度の障害者関連の予算について（資料8-1、資料8-2、資料8-3参照）
資料説明（幹事より）
- ・ 雇用支援ネットワーク全体から（資料9参照）
資料説明（事務局より）

4 その他

次回 平成22年6月上旬～中旬の午後

5 閉会

以上